2014

第24回守谷市青少年海外派遣事業報告書

平成26年7月24日(木)～7月31日(木)

守谷市

目　　次

- 守谷市長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
- 守谷市国際交流協会会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・　2
- 第２４回守谷市青少年海外派遣団員名簿・・・・・・・・・・　3
- 事前・事後研修日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4～5
- 海外派遣日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
- ホストファミリー名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
- アメリカ・グリーリー市周辺地図・・・・・・・・・・・・・・　8
- 思い出の日記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9～１６
- 派遣団員報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７～３４
- グリーリーの新聞に掲載された記事・・・・・・・・　３５～３９
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０

夢に向かって

守谷市長　会田　真一

第２４回守谷市青少年海外派遣も，多くの皆様の御協力により無事に終了いたしました。グリーリー市への青少年の派遣は，この夏で１４回目となりました。ノートン市長はじめ，派遣団を快く迎えてくださったグリーリー市民の皆様，また，ホストファミリーの中には以前にも団員を受入れてくださった方も見受けられ，いつもと変わらぬ温かいおもてなしに，心より感謝の意を表したいと思います。

今回，参加された皆さんは，ホストファミリーの優しさ，温かさに包まれて有意義な日々を過ごし，グリーリー市民の心からの歓迎に触れ，多くの人たちへの感謝の気持ち，意思を伝え合うことの喜びと大切さ，そして言語を越えた人の繋がりを改めて感じたことでしょう。また，コロラドの大自然の中で過ごすことでアメリカの広大さを実感できたかと思います。

団員の皆さんにはこの８日間を通じて得た貴重な体験をいかし，自らの夢の実現に向かって歩んでいってもらいたいと思います。そして，今後もホストファミリーとの交流を大切にしていただき，異文化への理解と友情の絆をより一層深められることを期待しております。

最後になりましたが，本事業を実施するにあたり御協力をいただきました守谷市国際交流協会をはじめとする関係者の皆様に心から感謝申し上げ，御挨拶といたします。

友好の架け橋へ

守谷市国際交流協会会長　小川　一成

第２４回守谷市青少年海外派遣事業が，無事成功のうちに終えられたことをお喜び申し上げます。

平成２年にこの事業が始まって以来，守谷市国際交流協会としましても全面的に支援，協力してまいりました。それは，当協会が目標とする市民の交流を通しての国際交流という観点にこの事業が合致しているためであります。

守谷市の代表として，何事も素直に順応できる１０代にアメリカの異文化や大自然，それ以上に異国の方々との心と心の触れ合いを感じてきたことは，このうえない財産となったことでしょう。今回，グリーリー市を訪問した皆さんは市民の気持ちに触れ，アメリカという国に好印象を抱くとともに，お世話になったホストファミリーに対し，感謝の気持ちとともに帰国したことと思います。是非，グリーリー市民の方々が来日する際には，守谷市のホストファミリーに参加していただき，イベント等にも参加をお願いしたいと考えております。

当協会は，今後も異文化体験の機会を増やし，より広い視野をもって物事を捉え，考えることのできる素晴らしい好機を提供するお手伝いを続けてまいります。

最後になりましたが，守谷市と姉妹都市グリーリー市との交流が益々発展することを祈念申し上げ，御挨拶といたします。

第２４回守谷市青少年海外派遣団員名簿

●団員

氏　名	学　校　名	学　年
室野（むろの）　太貴（たいき）	守谷市立守谷中学校	中３
星野（ほしの）　颯太（そうた）	守谷市立けやき台中学校	中２
北原（きたはら）　綺音（あやね）	茨城県立水海道第一高等学校	高２
二野戸（にのと）　楓（かえで）	東洋大学附属牛久高等学校	高１
山崎（やまざき）　彩花（あやか）	茨城県立竹園高等学校	高１
小玉（こだま）　夏帆（なつほ）	茨城県立竹園高等学校	高１
田中（たなか）　華鈴（かりん）	茨城県立牛久栄進高等学校	高１
八幡（やはた）　夏葵（なつき）	茨城県立竹園高等学校	高１
城取（しろとり）　芽衣（めい）	茨城県立水海道第一高等学校	高１
塩澤（しおざわ）　真結（まゆ）	聖徳大学附属取手聖徳女子中学校	中２
高橋（たかはし）　美来（みらい）	守谷市立御所ケ丘中学校	中１
吉井（よしい）　千智（ちさと）	守谷市立守谷中学校	中１

●引率者

氏　名	所　属
鷺野谷（さぎのや）　由嗣（よしつぐ）	守谷市国際交流協会理事
山田（やまだ）　雅子（まさこ）	守谷市役所生活経済部市民協働推進課

事前・事後研修日程

月　日	時　　間	内　　容	場　　所
6月7日 (土)	13:30～13:40	事務連絡	市役所 大会議室 ↓ いこいの郷 （宿泊）
	13:40～15:00	自己紹介・自分の家族を英語で紹介しよう！ 海外派遣のルール・基本的な英語	
	15:00～15:10	休憩	
	15:10～16:30	現地での心得	
	16:30～17:00	市役所～いこいの郷へ移動（公用車）	
	17:00～18:20	入浴	
	18:20～19:00	夕食	
	19:00～21:00	海外派遣 chat salon	
	21:00～22:00	ミーティング	
6月8日 （日）	7:30 ～ 8:30	朝食	いこいの郷 ↓ 市役所 大会議室
	8:30 ～ 9:00	いこいの郷～市役所へ移動（公用車）	
	9:00 ～ 9:20	グリーリー市との交流	
	9:20 ～ 9:50	What's America?	
	9:50～10:00	休憩	
	10:00～12:00	守谷市国際交流協会会員（派遣経験者）との懇談	
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:30	サンキュープログラムについて	
	14:30～15:00	英会話	
6月２２日 （日）	13:30～13:40	事務連絡	市役所 大会議室
	13:40～14:00	海外旅行で気を付けること	
	14:00～14:50	英会話	
	14:50～15:00	休憩	
	15:00～16:00	ホームワーク発表	
	16:00～17:00	サンキュープログラム経過発表	

７月６日 （日）	9:00 ～ 9:10	事務連絡	市役所 大会議室
	9:10～10:10	ヨークさんの異文化体験談	
	10:10～10:30	海外旅行で気を付けること	
	10:30～10:40	休憩	
	10:40～11:10	ホームワーク発表	
	11:10～12:00	サンキュープログラム経過発表	
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:40	歌の練習	
	15:40～15:50	休憩	
	15:50～16:50	英会話	
	16:50～17:00	事務連絡	
７月２１日 （月）	9:00～ 9:10	事務連絡	市役所 大会議室
	9:10～10:10	サンキュープログラム最終プレゼンテーション	
	10:10～10:20	休憩	
	10:20～12:00	歌の練習	
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	英会話	
	14:00～14:10	休憩	
	14:10～15:40	歌の練習・マジック披露	
	15:40～16:30	事務連絡	
８月２３日 （土）	9:30 ～10:20	反省会	市役所 大会議室
	10:20～10:30	休憩	
	10:30～11:00	報告書資料確認	
	11:00～11:30	解散式	

海外派遣日程

日	月日（曜）	発着地/滞在地名	発着 現地時間	交通機関	行　程
1	7月24日 （木）	守谷市役所 守谷市役所 発 成田空港 発	12：20 13：00 17：00	市バス UA138	集合後，壮行会 市バスにて成田空港へ出発 空路，アメリカ（デンバー）へ
		･･･日付変更線通過･･･			
		デンバー 着 グリーリー 着	12：50 14：00	バス	バスにてグリーリー市へ グリーリー市のホテルへ　《ホテル 泊》
2	7月25日 （金）	グリーリー	16：00		センテニアル・ヴィレッジ博物館 ウェルドカウンティー・フェア 北コロラド大学ツアー ホストファミリーとの対面式 《ホームステイ》
3	7月26日 （土）	グリーリー	終日		自由行動 《ホームステイ》
4	7月27日 （日）	グリーリー	14：10		野球観戦（コロラド・ロッキーズ） 《ホームステイ》
5	7月28日 （月）	グリーリー	13：00		自由行動 ファン・プレックス 《ホームステイ》
6	7月29日 （火）	グリーリー	18：00		自由行動 フェアウェルパーティー 《ホームステイ》
7	7月30日 （水）	グリーリー グリーリー発 デンバー着 デンバー発	9：00 10：40 12：40	UA139	バスにて空港へ 出国手続き 空路，成田へ　《機中 泊》
8	7月31日 （木）	･･･日付変更線通過･･･			
		成田 着 成田 発 守谷市役所 着	15：25 16：25 18：30 19：00	市バス	成田到着後，市バスで市役所へ 市役所到着後，帰国報告会 解散

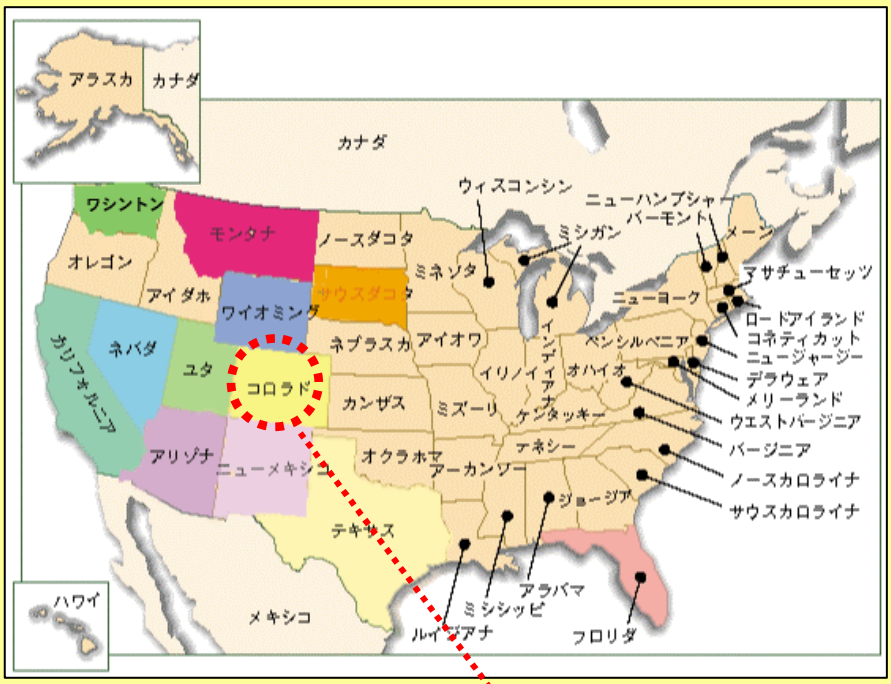
ホストファミリー名簿

団員氏名	ホストファミリー
城取　芽衣 塩澤　真結	Roberts Family
山崎　彩花 二野戸　楓	Herrera Family
田中　華鈴 吉井　千智	Ader Family
北原　綺音 小玉　夏帆	Haring Family
高橋　美来 山田　雅子	Gibson Family
八幡　夏葵	Casseday Family
星野　颯太	Kenneth Norem, Sandy Magnuson
室野　太貴	Welp Family
鷺野谷　由嗣	Coggins Family

アメリカ・グリーリー周辺地図

アメリカ合衆国
United States of America

面積　9,629,021 平方 km
人口　約３億１３１０万人
（「世界の統計 2012」総務省統計局）
首都　ワシントンＤＣ



City of Greeley Colorado
Great. From the Ground Up.

コロラド州グリーリー市
City of Greeley

面積　約７７．７平方 km
人口　９６，５４０人（2013 年現在）

思 い 出 の 日 記

City of Greeley Colorado

６月７日　宿泊研修

６月７日は初めての事前研修でした。まず自己紹介をして，自分の家族について英語で３分間スピーチをしました。私は英語が苦手なのでとても難しかったです。みんなのスピーチを聞いてみんなの家族について知ることが出来ました。知っている言葉だけでも聞き取って理解するようにしました。それから，英会話の勉強をしたり，アメリカの文化やアメリカでのルールを教えてもらいました。例えば海外では日本と違って「ＹＥＳ」と「ＮＯ」をはっきり言うことが大切だということ。「ＮＯ」と言って断ることも失礼なことではないと学びました。アメリカに行ったら，曖昧に答えて失礼にならないようにしようと思いました。英会話の研修も知らない言葉がたくさんあり覚えるのが大変だけど，今回教えていただいた英語を活用して積極的に会話ができるようにしたいと思いました。

その後，『いこいの郷』に行き，入浴をして，食事をとりました。夜はミーティングでメンバーと１対１で様々なテーマについて話をしました。今まで一人ひとりと話をする機会がなかったので，話したことがない人とも話ができてみんなのことを知れたし，仲良くなることが出来ました。（高橋美来）

６月８日　宿泊研修

１日目の夜は緊張していてよく眠れませんでしたが，２日目の朝はなぜか早く起きてしまいました。早起きした人たちでカードゲームをしました。朝食は多くて食べきれないほどでした。

研修の中で，派遣経験者との懇談はとても有意義な時間でした。１つ１つを詳しく教えてくれました。昼食も経験者の皆さんと一緒にとりました。いろいろな話が聞けて，とても参考になり，また，楽しかったです。

午後からの話し合いも真剣に取り組むことができました。
この宿泊研修で派遣仲間との距離が一気に縮まった気がしました。その後の研修もこの調子で真剣に楽しく取り組んでいきたいと思いました。（吉井千智）

6月22日　事前研修

本日は，並木中等教育学校を卒業し東京大学に入学した吉川仁さん(2008 年派遣団団員)にお越しいただき，計 17 名で事前研修を行いました。中学１年生・高校１年生の時にグリーリー市に行かれた時の体験談を話していただき，とても参考になりました。また，２つ目のホームワークである「守谷の好きな所」・「自分の好きな所」について発表しました。一人ひとりが自分の意見を持ち，大きな声でしっかり発表していました。また，ホームステイ５日目に行われる「お別れ会」で歌う候補曲を決めました。候補曲が「花は咲く」・「涙そうそう」になりました。また，本日より室野太貴さんが団員に加わりました。新たなる派遣団で頑張っていきます！（星野颯太）

7月6日　事前研修

ヨークさんの異文化体験談と，みんながホームステイを受け入れるときにやってみたいことの発表を行いました。

フェアウェルパーティーの歌は「涙そうそう」と「カエルの歌」になりました。

ヨークさんの異文化体験談では，日本人の多くの人が鼻水をすすっていることや，日本には電線がたくさんあることに気付きました。

ホームステイのプラン発表では，和室を見せてあげたい，普通のお買い物に行きたい，プリクラを撮りたい，回転寿司や納豆ラーメンを食べに行きたい，ワープステーション江戸に行きたい，などみんなの発表を聞いてからいいアイデアがたくさん浮かんできました。

団長がマーブルチョコのマジックを披露してくれました。

少しみんなの距離が縮まった研修になりました。（小玉夏帆）

7月21日　事前研修

今日は最後の事前研修でした。５回目の事前研修ということで，皆すっかり打ち解けていました。

サンキュープログラムの最終プレゼンでは，それぞれの特技を生かしたものや，日本の文化に関係したものなどの案が出されました。

歌の練習では，歌の先生が来てくださいました。腹式呼吸や発声などの本格的な練習の他，体のストレッチや顔の体操などの一見歌を歌うことに関係なさそうなのもあってびっくりしました。

英会話でもネイティブスピーカーの先生が来てくださり，より実践的な練習ができました。

今度みんなと会うのは日本を出るときなので楽しみです。（室野太貴）

7月24日　壮行会～成田空港～グリーリー

壮行会を終えて，市役所の方々や家族に見送られ，不安と期待を胸に抱きながら，皆笑顔で市役所を出発しました。成田空港へ向かうバスの中では，前夜あまり眠れなかったのか，熟睡している人，笑顔で楽しそうにおしゃべりしている人，ちょっと緊張している人，様々でした。

出国手続きも無事に済み，飛行機の中では映画を観たり，時差ボケ防止で睡眠をとったりしました。１０時間という長い空の旅を終え，やっと到着したアメリカはまだ昼で時差を実感しました。空気が日本より乾燥していました。グリーリーへ向かう車内からは広大な緑地に沢山の牛の群れが見えました。

グリーリーに到着後，まずレストランに行きました。現地の人に英語が通じて嬉しかったです。日本で見られない料理もありました。皆長旅の疲れも見せず，初めての食事を賑やかに過ごしました。その後ホテルへ移動し，ショッピングにも行きました。初めて見るものばかりでわくわくした１日目でした。空港から一緒だったグリーリー市役所の職員の方に大変お世話になりました。（田中華鈴）

7月25日　ホームステイ(1日目)

まず，昼間は大学，博物館を見学しました。博物館では，古いアメリカの家を見学しました。壁紙が花柄の家が，とても可愛かったです。北コロラド大学では，敷地面積の広さにびっくりしました。夜はついにホストファミリーとの対面でした。用意してもらった果物などを食べながら，少しずつ打ち解けていきました。その日は疲れて早く眠りましたが，明日からどんなことが起きるのかわくわくして眠りました。（八幡夏葵）

7月26日　ホームステイ(2日目)

私たちはロッキーマウンテンに行きました。山脈にお店がたくさん並んでいて，誰がこんなお菓子食べるの？！と突っ込みたくなる甘そうなものばかりで，苦笑いでした。

一つ不思議だった事があります。山の天気は崩れやすく雨が降った時もありました。しかし，現地の人は雨など一切気にせず傘もささず平気でいたので，日本では考えられないなと思いました。

また，その日の夜は私のホストファミリーの家の向かいのホストファミリーとバーベキューをしました。グリルの大きさに唖然としました。（笑）　お肉はおいしかったです。また，ホストマザーの作ってくれたシナモンパイは最高でした！！

普段の生活をするだけでもすべてがカルチャーショックでした。この新鮮さをいつまでも私の宝物にしようと思います。

アメリカ大好き！！（北原綺音）

7月27日　ホームステイ(3日目)

　この日は，グリーリー市を離れ，デンバーにある野球スタジアムに行き，団員全員で野球観戦をしました。
　観戦席では，大声で応援する声があちこちから聞こえてきて，とても盛り上がっていました。観客は，野球チームのロゴの入ったＴシャツを着ている人が多く，アメリカでは野球はとても人気なのだと一目で分かりました。

　試合は，コロラドロッキーズ戦。しばらくは観戦しましたが，途中からお腹が空き，友達と一緒に売店などを見て回りました。
　そこには，日本の屋台のようなお店がたくさん並んでいて，カラフルなわたあめや大きなポテト，飲み物などが売られていました。他にも，野球ボールやバット，洋服などを売っているお店もありました。私も友達とお揃いでチームロゴの入ったＴシャツとパーカーを買いました。買い物が楽しく夢中になりすぎ，気づくと試合は終わり，どちらが勝利したのか分からず帰りの時間になってしまいました。
　野球の本場，アメリカで，迫力のあるスタジアムに行くことができ，良い思い出となりました。（城取芽衣）

7月28日　ホームステイ(4日目)

　ホームステイ４日目。この日はファン・プレックスでのユース・交流会でした。
　着いてすぐ，野外でミニゴルフをしました。

すごく暑かった！ みんなあまりやったことがなくてなかなか入らず・・・とても苦戦していました。（笑）
この日の昼食はバーベキュー！ ハンバーガーやクッキーなどたくさんありました。
　満腹になったあとはお待ちかねのプール！とても大きくてウォータースライダーの迫力もすごかったです！ そのあとはバレーボールをしました。この１日でみんなの仲がもっと深まったと思います。充実した楽しい１日でした。（二野戸楓）

7月29日　ホームステイ(5日目)

　あっという間にホームステイ最後の日になってしまいました。
　私は午前中，スーパーに連れて行ってもらい，サンキュープログラム用の食材と家族へのお土産を買いました。お肉売り場では，薄切りの肉が売ってなかったので，どの肉を買えばいいのか迷ってしまいました。
　隣の家も違う子のホストファミリーでとても仲が良かったので，団員４人みんなでご飯とみそ汁，お好み焼きを作ってあげました。「クッキングペーパー」がうまく伝わらなかったり，菜箸がなかったりして大変でした。ホストファミリーが，お好み焼きを食べて，「It's yummy!」と言ってくれたのがとてもうれしかったです。また，私も久しぶりに日本食を食べて，ほっとしました。
　午後は湖に行って泳ぐ予定でしたが，雨だったので，ショッピングに行きました。
　フェアウェル・パーティーでの歌の時，アメリカに来てからの出来事をいろいろ思い出して，１週間ほんとに短かったなと思いました。そのあとのキャンディーキャッチは，スイカ割りみたいで楽しかったです。（山崎彩花）

7月30日，31日　グリーリー～　成田空港～帰国報告会

　デンバー空港へ向かうバスに乗ったら，たくさんのホストファミリーがバスに向かって手を振ってくれました。その眼差しは「いつかまた成長して帰って来てね」と言ってくれているように見えました。最後は笑顔でお別れしようと皆涙をこらえて手を振っていましたが，ホストファミリーが見えなくなると，涙が出てきてしましました。

　空港に着いて，飛行機に乗ると，カメラのメモリーを見ながらアメリカでの思い出を胸に眠りました。
　飛行機を降りると，日本に帰ってきたという安心感と疲れがどっと出ました。（塩澤真結）

8月23日　事後研修

青少年海外派遣団として姉妹都市であるアメリカ合衆国コロラド州グリーリー市へ旅立ってから１か月が過ぎた８月23日，守谷市役所大会議室にて事後研修が行われました。久し振りに顔を見た団員達は，グリーリー市に行く前と比べてたくましくなったように感じました。

事後研修では，報告書資料確認とともに，反省会と解散式を行いました。反省会で団員から出た，研修や本プログラムに対する意見を，今後に生かしていきたいと思います。また，解散式で聞いた団員たちの将来の夢が叶うことを，とても楽しみにしています。（山田雅子）

守谷からのプレゼント「獅子頭」

獅子頭は，茨城県の伝統工芸品の一つで，江戸時代中期に常陸総社宮大祭(茨城県石岡市のお祭り)に獅子舞が登場して以来，桐の産地として名高い茨城県石岡市を中心に，桐を原材料として製作されています。獅子頭を頭にかぶって舞う伝統芸能の獅子舞は，日本各地で正月行事や晴れの日に舞われ，幸せを招くと共に厄病退治や悪魔払いとして古くから伝えられています。獅子に頭をかまれると，その年は無病息災で元気に過ごせるという言い伝えがあります。

獅子頭は全国各地で製作されていますが，茨城県石岡市の獅子頭は，目・眉毛が大きく凛とした顔立ちが特徴です。お祭りに使用されるほか，魔除けとして家庭に置く装飾品として，また，新築祝い，出産祝い等の贈答品としても人気が高くなっています。

獅子頭は，桐の木を彫刻刀で彫っていきます。全体を４つに分けて作り，最後に組み立ててサンドペーパーで磨き，仕上げます。表面は，漆と同じような光沢が出るカシューという塗料で何度も塗ります。獅子頭の髪は，馬の立髪を使用しています。獅子頭の下に敷いているものは，床や畳の上に座る時に使う座布団というものです。

グリーリー市のますますの発展を願うと共に，両市の友好を祝して，この獅子頭を贈ります。

派　遣　団　員報告書

室野　太貴

星野　颯太

北原　綺音

二野戸　楓

山崎　彩花

小玉　夏帆

田中　華鈴

八幡　夏葵

城取　芽衣

塩澤　真結

高橋　美来

吉井　千智

鷺野谷　由嗣（団長）

山田　雅子（引率者）

My Second Home

守谷市立守谷中学校３年　室野　太貴

飛行機からその姿が見えたとき，想像以上の広大さに驚きました。

僕はずっとアメリカに行くことを夢見ていたので，それは人生で最高の瞬間でした。

″Hello, America!!″

２日目は University of Northern Colorado の校内を見学しました。寮の部屋がとても綺麗で驚き，そこに住んでいることがとても羨ましかったです。その日の午後は待ちに待ったホストファミリーとの対面です。以前からメール交換をしていましたが，顔を見るのは初めてです。Union Colony Civic Center に向かう途中，期待と少しの不安を抱えていましたが，着いて Welp Family と会ったとき，優しそうな人たちで安心しました。そして，ご近所ということで今回のステイでお世話になる Haring Family とも会いました。僕は「絶対に楽しくなる」と思いました。

対面式を終えたあと，Lincoln Park のお祭りに行きました。そこではロックバンドのコンサートなどが行われていて，１番楽しかったのは，４人乗りの自転車(？)に小玉さんと北原さんと Lauren と僕で乗り，お祭りの道を走ったことです。Lauren はそのときずっと笑っていて，僕も楽しい気持ちになりました。僕は Lauren の言う通りに運転しましたが，人がたくさんいる道も「Keep going!!」と言われてびっくりしました。でも，通り過ぎる人たちのほとんどがこっちを見て微笑んでくれたり，「Cool!」と言ってくれたりで日本にはないような「温かさ」を感じました。

ホームステイでは，たくさんの新しく素晴らしい経験をしました。ロッキーズ戦を観たときは，日本の熱狂的な応援に比べて，みんなラフな感じでそれぞれのスタイルで楽しんでいてこっちのほうがいいなと思いました。でも８歳の女の子の Madison がブーイングをしていたのは少しびっくりしました。そのあとは球場でコンサートを観ましたが，思ったより長くて寝てしまいました。

そのほかにもプール，ゴルフ，バスケ，スケボーなどをしたり，夜にマシュマロを焼いて食べたり，ポケバイに乗ったりして毎日が楽しく，ずっと続いてほしかったですが，その日々はあっという間に過ぎてしまいました。

ホームステイの最終日のフェアウェルパーティーでは鷺野谷さん，星野くんとマジックを披露しました。とても緊張しましたが，みんなに喜んでもらえて大成功でした。また，団員全員で事前研修から練習していた「カエルの歌」と「涙そうそう」もよくできたのでほっとしました。そのときに飲んだ Root Beer の味も忘れないでしょう。

その日の夜は Welp Family と Haring Family が集まって写真を撮ったり，いろんなことを話したりしました。小玉さんと北原さんが作ったお好み焼きをみんな美味しいと言って食べてくれたことも嬉しかったです。お父さんとお母さんが寝た後に子供だけで食器を洗ったり片付けをしたりしていたら２時くらいになってしまいましたが，それは人生で最高の夜でした。

家に帰り Welp Family と Haring Family に手紙を書いているとき，これで終わりなんだという実感がわき，いろんなことを思い出して泣いてしまいました。

次の日，ついに別れの日がやってきてしまいました。Welp Family に別れを告げて空港へ向かいました。Lauren が空港まで見送りに来てくれてとても嬉しかったですが，空港で Andrea と Lauren と別れる時は涙が止まりませんでした。

今回の海外派遣で得たことと素晴らしい経験は忘れないし今後の僕の人生に影響を与えてくれるでしょう。次グリーリーに行くときは Welp Family と Haring Family に恩返しをしたいです。

Thank you, Kent, Dee, Ken, Andrea, Lauren, Madison.

ホストファミリーとの絆

守谷市立けやき台中学校２年　星野　颯太

２０１４年夏，僕は初めてアメリカ本土でのホームステイを行いました。成田空港から飛び立つときに両親や市役所の方々との別れは辛く，ホストファミリーと話せるかどうか，グリーリーでの生活に慣れるかどうかとても心配でした。

１０時間かけてアメリカに行き，ホテルで１泊してUCCC でホストファミリーと会ったとき，笑顔で歓迎してくださってとてもうれしく思いました。しかし，いざホストファミリーと話してみると，とても速く，独特の訛りがあり，知らない単語がたくさんあって，このままやっていけるのかどうかとても不安でした。

ホストファミリーの家にはビリヤード台があり，ビリヤードを通して会話することで少しずつ話すことが不安ではなくなりました。また，ロッキーマウンテンやアートピクニックなど様々な所に行き，そのたびに話す話題がたくさん浮かんできて，たくさん話すことが出来ました。サンキュープログラムでの涙そうそう，書道，マジックがすべてうまくいき，ホストファミリーとの絆を最大限に深めることが出来ました。

そして，とうとうお別れのとき。お別れのときには，笑って終わると決めていたのに，当日になったら涙が止まりませんでした。「別れ」がこんなにも辛いことなのだと改めて実感しました。

今でもホストファミリーとはメールでやり取りしていますが，そのたびにまた会いたいなと思います。高校生になり，自分でお金を貯められるようになったら，またホストファミリーに会いたいと思います。そして，今回一緒に行った他の１１人のメンバー，２名の引率者の方々に感謝の気持ちを伝えたいです。

Thank you everyone!! and Thank you so much!

アメリカ最高

茨城県立水海道第一高等学校２年　北原　綺音

　人生初のホームステイ，人生初のアメリカ。向こうでの生活は私にとって見るもの，触れるもの全てがとても新鮮で刺激的でした。その中でも特に驚いたのはアメリカの良い自由さです。少し外へ出るとありとあらゆる人種がいるということに私は気がつきました。そうなると考え方，行動，宗教，生活と様々な違いが生まれますが彼らはお互いを自然と認め合って共存しているのです。日本にいると決して悪い意味ではないけれどなぜか他国の人を特別視してしまいがちです。だから私はステイ中，ホストファミリーだけではなく出会う人全てと精一杯会話をするように心がけました。もちろん私は英語をペラペラ喋れるほどではありません。ですが現地の人は必ず私の目を見て理解してくれます。そうやって会話していると一味違った考え方が聞けたりして面白かったです。

　また，生活感も全く違いました。現地の食べ物１つが多すぎて全部食べるのが難しかったです。味はとっても美味しくてレシピも教えてもらうほどでした。私にとって新鮮だったのは，料理を作るときみんなで一緒に作って楽しんでいたことです。大人一人が料理するのではなく子供に教えながら一種の教育の場として取り入れていることで書いたりする勉強とは違う良い勉強だと思いました。

　たった７日間の短すぎるホームステイでしたが２４時間全てが本当に濃い思い出となりました。現地の人の心の温かさが大好きです。初めてだったので自分の伝えたいことがなかなか言えないもどかしさも経験しました。ですからもっともっと英語を勉強します。そして，またいつか必ずホストファミリーと再会をしたいです。

　素晴らしいチャンスをくれた両親，支えてくださった周りの方，また何かの縁で出会うことができたホストファミリーに本当に感謝しています。アメリカ最高！

アメリカでの８日間

東洋大学附属牛久高等学校１年　二野戸　楓

アメリカで過ごした８日間は本当にあっという間でした。出発前は，言葉や食事などの不安も楽しみもありました。１日目の夕食はビュッフェ形式のレストランで食べました。日本では見たことのないものもたくさんあってとても興奮しました。

２日目はセンテニアル・ヴィレッジ博物館と UNC（北コロラド大学）の見学に行きました。UNC はとても綺麗でジムや博物館など，施設もたくさんありました。寮の中も見ることができました。２日目の夕方からはいよいよホームステイ。ホストファミリーもとても優しくて安心しました。

家に着いて日本との違いをたくさん見つけました。まず驚いたのは家の大きさ！ これがアメリカの家か！ と思いました。そしてさらに驚いたのはゲストルームがあることです。シャワーもトイレもクローゼットもあって驚きました。もちろんテレビも！

お隣とも仲が良くて毎日一緒に行動していました。お隣の子どもたちが朝食を食べにきたり，日本では体験できないこともたくさん体験しました。夜には，Kenli と Kole とお隣の子どもたちと一緒に映画を見たり，２１時ぐらいまで外で遊んだり，リボンを作ったり，地下で卓球をしたり…本当にたくさんのことをしました。

４日目の夜，夕食を食べた後，みんなでテレビを見ていたらアメリカ版のサスケが放送されていて驚きました。

５日目は，サンキュープログラムのためにスーパーマーケットに連れて行ってもらいました。全てが大きい！ カートも棚も商品も大きいし種類もたくさんありました。特に冷凍食品の数がたくさんありました。お土産もたくさん買いました。でもお金を払うのが大変で小銭を出すことができませんでした・・・。日本では自分で袋に入れるけどアメリカではお店の人がやってくれて日本との違いを実感しました。サンキュープログラムもとても喜んでもらえて嬉しかったです。

５日目の午後のフェアウェルパーティーはたくさんの料理をホストファミリーと一緒に食べることができて楽しかったです。鷺野谷団長と男の子たちのマジックや研修のときに練習してきた「かえるの歌」と「涙そうそう」の発表も喜んでもらえたと思います。

私にとってこの８日間はとても貴重な体験ができた８日間でした。もっと英語を話せるようになってたくさんの人とコミュニケーションができるようになりたいと思いました。鷺野谷さん，山田さん，守谷市役所のみなさん，家族，そして受け入れてくれた Herrera family 本当にありがとうございました。

たくさんの出会い

茨城県立竹園高等学校１年　山崎　彩花

私はこの事業を通して，たくさんの人に出会いました。その中でも特に多くの時間一緒に過ごしたのが，ホストファミリーです。

私のホストファミリーはあまりメールをしない人で，ホームステイの前にメールでやり取りをできませんでした。だから，どんな人たちか分からず，会うのが楽しみというより不安でした。でも，実際会ってみると，優しくてほっとしました。

ホストファミリーの家はとても大きく，隣の家と庭がつながっていて，びっくりし，羨ましく感じました。隣の家の人も違う子のホストファミリーだったので，庭でみんなと夜の９時までバレーボールをしました。９時になってもまだボールが見えるぐらい明るかったです。

ホストファミリーと過ごした５日間，いろんな所に行っていろんなことをしました。地下で映画，アートピクニック，乗馬，ショッピング，野球観戦，ゴルフ，バーベキュー，バスケ，プール･･･。家でもキックベースをしたり卓球をしたり，リボンを作ったり折り紙をしたりしました。常に出かけたり遊んだりしていたので，時間が過ぎるのが本当にあっという間でした。日本に帰る前日，ホストファミリーのためにお好み焼きを作ってあげました。フライパンの中でうまくひっくり返せるか，おいしいと言ってもらえるか，不安でした。でも，みんなおいしそうに食べてくれたし，ホストマザーが”It's yummy!”と言ってくれたので，とてもうれしかったです。

ホストファミリーのほかにも，北コロラド大学を案内してくれたお姉さん，新聞記者とカメラマン，スーパーのレジのおじさん，カウボーイのところで会った老夫婦，レストランで会った誕生日の男の子，ホテルの人，道ですれ違った人など，たくさんの人に会いました。これらの人たちとは少しずつしか話してないけど，私にとってはいい経験になったし，思い出になりました。

そして，一緒にアメリカに行った仲間とも出会うことができました。私はこんなに楽しくて面白いメンバーと一緒にアメリカに行けて良かったです。これらの経験や出会いを大切にし，思い出だけで終わらせずにこれからも国際交流を続けていきたいです。

私の大好きな場所

茨城県立竹園高等学校１年　小玉　夏帆

この事業で一生忘れられない思い出ができました。初めての海外でたくさんの発見があり素晴らしい経験ができました。ずっと研修から楽しみにしていて出発の日の朝はワクワクしてみんなとの挨拶もにこにこしてしまいました。

デンバー空港に着いたときに守谷とグリーリーのマークとロッキー山脈の絵が書いてある大きな紙をもった市役所の人が待っていてくれました。‘From Moriya?’と聞かれて初めてグリーリーの人と会った瞬間でした。その日はビュッフェ式のレストランで早速緑のクリームを発見したり，甘くて大きなドリンクを飲んだり，カルチャーショックというものを少し感じました。

翌日は動物を見て，北コロラド大学に見学したあと待ちに待ったホストファミリーとの対面式でした。初めてホストマザーの Andrea と会った時，ゆっくり話してくれているのが分かってほっとしました。ホストシスターの Lauren は本当にかわいくてすぐに仲良くなれました。ホストファザーの Ken ともう一人のホストシスターの Madison はサッカーの試合でその時は会えませんでした。もっと早くあってたくさん話したかったなと思います。

グリーリーの人はみんな近所の人と仲良くて家に勝手に出入りするし，いたずらも大好きで本当に楽しい時間ばかりでした。毎晩，お向かいの家にステイした子を起こしに行ったり，庭にトイレットペーパーを巻きつけたりあり得なくて面白い思い出がたくさんできました。ロッキー山脈に登ったり，コロラドロッキーズの野球を見たり，１日１日が本当に充実していて５日間しか過ごしていないとは思えないような時間でした。

お別れの日は家を出るときからみんなで泣いてしまいましたが，たくさんハグしてお手紙をもらえて本当に帰りたくないと感じました。私の大好きな場所ができました。絶対にまた戻って来たいです。

最後にこんな素晴らしい経験をする機会を与えてくれた守谷とグリーリー市のみなさんと，家族への感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。

初めてのホームステイ

茨城県立牛久栄進高等学校１年　田中　華鈴

私は人生で初めてアメリカでホームステイを体験しました。毎日が新しい発見や楽しいことの連続で，非常に充実した日々が送れました。アメリカへ出発する前はとても不安で緊張していましたが，ホストファミリーと会った時は不思議と安心しました。

私のホストファミリーは６人家族でした。最初は話しかけられてもらうばかりで，何を言っているのか聞き取れないことが多々ありました。しかし，共に過ごしていくうちにコミュニケーションがうまくとれるようになり，自分から積極的に話しかけられることも多くなりました。

ホストファザーは仕事で家にいることは少なかったのですが，暖かく声をかけてくれました。集合場所への送迎など，すごく親切にしてくれました。ホストマザーはよくショッピングに連れて行ってくれました。お店では日本と違い店員と日常会話をする場面が多かったです。レジでは「気分はどう？」や「良い１日を！」など，友達のように話しかけてくれるので驚きましたが，とても良い気持ちがしました。日常生活でホストマザーから学ぶことは多かったです。長女のヘイリーは１０歳なのに，しっかり者で弟妹の面倒をよく見ていました。次女のケネディは笑顔の素敵なお姫さまのような女の子でした。三女のグレイスは写真を撮るのが好きで，私のデジカメで家中を撮影し，かわいい解説と共に記録に残してくれました。長男で末っ子のマックスはまだ３歳で元気いっぱいに広い家や庭を走り回っていました。

私は今回のホームステイを通して，話す言葉が違っても人間として感じる気持ちは同じで，一生懸命伝えようとすれば必ず気持ちは伝わり，コミュニケーションがとれるということを初めて身近に感じました。英語に対してもこれまで以上に真剣に勉強し，流暢に話せるようになって，世界で通用するような人になりたいと思いました。

このような機会をいただき，本当にありがとうございました。一生忘れられない夏休みの思い出になりました。

一生残る経験

茨城県立竹園高等学校１年　八幡　夏葵

８日間の海外派遣では，たくさんのことを経験しました。まず，アメリカに着いてからの北コロラド大学の見学では，あまり日本にはない大きな敷地に驚きました。フリスビーを楽しむ学生もたくさん見かけられて，日本とは違った公園のような楽しい雰囲気が好きになりました。

大学見学のあと，夜からのホームステイでは一生忘れることの出来ない思い出が出来ました。私がステイしたのはロブとメリケイの家でした。緊張していた私に，「緊張しなくていいよ」と笑ってメリケイが言ってくれたのをよく覚えています。ホームステイ期間で一番驚いたことは，ホームパーティーの多さです。私はロブの会社の集まりを含めて３回ホームパーティーに連れて行ってもらったのですが，誰かの誕生日があると，親族がみんな集まるのが衝撃でした。また，パーティーでみんな私を知らないはずなのに「どこから来たの？」と話しかけてくれて嬉しかったです。

ロブとメリケイと，たくさんの所へ行きましたが一番印象に残っているのはロッキー山脈の中にあった遊園地です。山の中に遊園地があるのも面白かったし，日本と違った点がたくさんありました。一番は，遊具の危険さです。ゴーカートに速度制限がなかったりと，遊具を通してアメリカ人のおおらかさが伝わってきました。

ホームステイで何より楽しかったのは，ホストファミリーとの会話です。料理をしながら夢について話したりするとき，ロブ達が応援してくれたのが嬉しかったです。

派遣が終わって，またロブやメリケイに会いたいという気持ちがあります。今度はもっと話せるよう，英語をたくさん勉強したいです。また，来年ロブの孫が来日するかもしれないので仲良くなりたいです。

夢が叶うとき

茨城県立水海道第一高等学校１年　城取　芽衣

私はこの夏，アメリカのコロラド州にあるグリーリー市へホームステイに行きました。幼い頃から語学に興味があり，外国人とコミュニケーションをとることが夢でした。初めてのアメリカで初めてのホームステイ。行くことが決まってからは，楽しみでとてもドキドキでしたが，実際に行ってみると見るもの全てが珍しく興奮しました。

グリーリー市は日本と同じ夏なのに，乾燥していてとても過ごしやすかったです。道路は日本と比べるととても広く，信号は縦に並んでいて，どの家もとても大きかったです。大きいのは建物だけではなく，食事の量の多さにも驚かされました。また，どれを食べても味が濃く，食文化の違いも感じました。

私のホストファミリーの Mary と Odie は，親切で優しい老夫婦でした。ホームステイ中は，２人が経営しているお店や大きなショッピングモール，ロッキー山脈にも連れて行ってくれました。夜には，トランプでババ抜きやゴルフィッシュをして盛り上がり，楽しかったです。

グリーリーの街を歩くと，初めて会った知らない人が挨拶をしてくれたり，気軽に声を掛けてくれました。私は，恥ずかしくて返事をするだけで精一杯でしたが，明るくフレンドリーな街の雰囲気に溶け込み，気づくと自分から話し掛けられるようになっていました。

また，日本では聞いたことがない速いスピードで会話をするので，ついていくのに必死でした。しかし，分からないときは，それを伝えると，相手が理解しやすい言葉を使ってくれたので，会話が続きとても嬉しかったです。

あっという間の８日間，お別れする時は，ホストファミリーにもう会えないかと思うと寂しくて帰りたくなくなりました。

沢山の人に親切にしてもらい，支えられたおかげで，この８日間の旅は私にとって一生に残る大切な思い出となりました。感謝の気持ちを忘れず，アメリカで出会った人たちのように，広い心を持ち，行動力のある人になりたいと思います。

夢のような８日間

聖徳大学附属取手聖徳女子中学校２年　塩澤　真結

アメリカで過ごした８日間はあっという間に過ぎ，とても充実した日々でした。

私のホストファミリーは，７７歳 の Odie と６６歳の　Mary　の Robert 夫妻で，大きなお店を経営している方々でした。日本であのように生き生きと生活し，働いている高齢者を私は知らなかったので，とても驚きました。グリーリーは高齢者が健康で，元気に過ごせる町でした。水道水はとてもおいしい地下水，緑豊かで空気も澄んでいること，それからたくさんの人が笑顔で挨拶してくれて，困っていれば心よく助けてくれるような笑顔と優しさにあふれている町でした。女性や子供やお年寄りにとても親切で，さすが，「レディーファースト」の国だなと思いました。

私は将来，環境に関する仕事につきたいと考えています。グリーリーでは生活の中で，自然を感じられることが多くありました。広々とした公園には野生のリスやウサギが遊び，町にはいたる所に花が植えられてとても美しい町でした。私も将来，こんな町に住んで年をとっても生き生きと働いていたいなと思いました。

お世話になった Robert 夫妻はとても仲が良く，優しい方たちでした。経営するリサイクルショップの従業員の方たちも陽気で，私達を歓迎してくれました。英会話が不得意な私と一生懸命向き立って理解しようとしてくれました。アメリカにもう一つの家族ができた気がしてうれしかったです。別れの日は皆で朝日を見ようと朝４時に起きました。今日でホストファミリーとお別れだと思うと悲しくて涙がでて，Mary も一緒に泣きました。

Robert 夫妻は来年日本へ旅行に来るそうです。その時までに，もっと英語を勉強して，成長した姿を見せたいと思います。

最後に，このような機会を与えてくださった，守谷市国際交流の方々，両親に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

『もう一つの家族』との出会い

守谷市立御所ケ丘中学校１年　高橋　美来

私は，この海外派遣事業に参加させて頂き，多くの貴重な経験が出来ました。

デンバーに着くとたくさんの英語が飛び交い，アメリカに居るという実感がわきました。これから頑張れるかという不安な気持ちと，ホストファミリーに早く会いたいという気持ちでいっぱいでした。

１日目，２日目と北コロラド大学などの見学をして夕方，楽しみに待っていたホストファミリーとの対面。私のお世話になるホストマザーは日本人の方でした。最初に会ったときは少し日本語で話して助けてもらいましたが，徐々に英語で話せるようになってきました。これから約５日間滞在させて頂く家に着きました。とても大きな家で，広くてきれいなお庭があって素敵な家でした。ステイ中は，バレーボールやボウリング，野球観戦をしたり，教会や映画館，プールやたくさんのお店に買い物に連れて行ってもらいました。中でも一番印象に残っているのがホームステイ２日目に行った『ロッキー山脈国立公園』です。標高が高いところに行くのは初めてで少し不安でしたが，絶景を目の前にすると，そんな不安もなくなりました。コロラドの天気は変わりやすく，この日も雹が降って，晴れては，また雨が降ったり。乗馬をする予定でしたが諦めました。でも湖に入って遊んだり，ピクニックをしました。１日目は子どもたちと何を話していいのか分からなくてあまり馴染めなかったけど，この日から自然と話しかけることが出来るようになってきました。また，普段の日本での私の生活との違いは，朝，シャワーを浴びること。テラスで朝食を摂ること。とても新鮮でした。Gibson 家の近所のお友達とも一緒に遊んだり，バーベキューをしたり，話が出来ました。たった５日間という短い時間の中で本当にたくさんの経験と思い出ができました。最初はうまく伝わらなかった英語もどんどん自分の力だけで発せるようになっていました。英語で会話ができていることが嬉しかったです。最終日にはみんなでかっぱ巻きを作りました。私は，感謝の気持ちを込めて練習してきたタップダンスを披露しました。

お別れの日，ホストファザーが言ってくれた「家族の一員」という言葉がとても嬉しかったです。思わず涙があふれてきました。

これから数年後，また高校や大学でグリーリーに行って，Gibson 家のみんなに会いに行きたいです。

追伸：帰国後，まもなく子どもたちからエアメールが届きました！Thank you！

私の大切な家族

守谷市立守谷中学校１年　吉井　千智

アメリカでの８日間は過ぎるのがとても早かったです。

私のホストファミリーは６人家族で犬が１匹いました。ファミリーが決まってすぐにメールをしましたが，返信がなくて心配でした。しかし，家族との対面のときに一目で分かりました。「子どもがたくさんいる！この家族だ！」と思ったからです。

ママのターシャは笑顔で迎えてくれて，とてもほっとしました。パパのマイケルはずっとニコニコしていてレディファーストで接してくれました。とっても優しかったです。ヘイリーは１０歳で私が朝起きられなかったときに起こしに来てくれました。助かりました。ケネディは７歳で，始めなかなか話せなかったときにだんだん近づいてきてくれて，とっても嬉しかったです。ケネディは私に自分の部屋を貸してくれました。ケネディの部屋はとても７歳とは思えないような素敵な部屋で，やっぱりアメリカだなぁと思いました。グレースは６歳でした。グレースは写真を撮ることが大好きで，時間が空くとすぐに私のカメラで撮っていました。いつも「3.2.1 チイーズ」といって写真を撮っていました。３歳のマックスは始めて会った時は，目も合わせてくれず心配でした。でも一緒に遊ぶ中でだんだん喋ってくれるようになりました。犬のウォークシィーと遊んでいて犬が他の家の方へ行ってしまい，マックスが追いかけたら犬は戻ってきましたが今度は，マックスが戻ってこず，思わず大笑いをしてしまいました。

短い間でしたが，エイダー家族と過ごした日々はとても充実していました。私たちを温かく受け入れてくれました。私も家族の一員になれたような気がします。英語はとても難しくて最初は話せずにいましたが，一緒に過ごすうちに慣れてきて，自分の言いたいことが，伝わるようになってとても嬉しかったです。伝えたい気持ちがあれば伝わると思いました。

別れのときはたくさんの思いがこみ上げてきて，大泣きしてしまいました。私はもっとグリーリーの家族のそばにいかったです。でも私はここで学んだことを決して忘れません。一生の宝物にします。

誰かに思いを伝えることは決して簡単なことではありませんでした。ですが伝えられたときの喜びはそれ以上に大きいものでした。このような機会をいただき本当にありがとうございました。

グリーリー市民のおもてなし

団長　守谷市国際交流協会　鷺野谷　由嗣

“Friendship=Yujo”の言葉がフェアウェルセレモニーで頂いたピンバッジに結ばれたタグに書いてありました。この言葉からグリーリー市民が守谷市との姉妹都市交流関係を心から支援していると感じました。私は仕事を通じ又退職した後観光で海外へはよく行きましたが，生徒を引率してのホームステイは今回が初めてです。事前研修や壮行会では余裕の態度を示していましたが内心は不安でした。デンバー空港ではメキシコからの飛行機が成田からの飛行機の前に到着していた関係で入国審査に１時間以上掛かりました。グリーリー市職員３人が手書きの歓迎の横断幕を広げ入国ゲートで長い間待って下さいました。

１日目はグリーリーのホテルに滞在したので生徒達は時差の調整とアメリカの雰囲気に少し慣れたと思います。２日目全員で市内観光の後，歓迎式典に向かいました。市のレクレーションセンターの玄関には姉妹都市を支援する人が沢山待っておりました。私達が車から降りるとホストファミリーは自分達が引き受ける生徒や私達の顔を見付け，急いで近寄って中に案内して下さいました。私も事前に写真を交換していたので直に相手を見付けることが出来ました。グリーリーの皆様が私達の到着をこんなに待ち望んでいたのを体感し私の不安は消えました。私が滞在した Coggins 夫妻は以前に３回引率者を引き受けた方です。ゲストルームには以前の滞在者との記念写真がアルバムの中に有りました。４日目デンバーでコロラド・ロッキーズとピッツバーグパイレーツの野球の試合を見に行きました。Coggins 家に戻ったのは夜の１０時を過ぎておりました。試合の内容を話すよりも姉妹都市交流を今後どの様にすべきか等１２時過ぎまで話しこみました。姉妹都市交流を良くしていきたいとの熱意を受けました。

今回年配者だけの受入れ家族が全部で４組ありました。全てが Coggins 夫妻と同じく姉妹都市交流にとても熱心な方達でした。最後のお別れの日，印象的だったのはホストファミリーの子ども達が，心から別れを惜しんで涙していたことです。短い期間でしたがグリーリーの人は皆私達の為に出来るだけのおもてなしをしようとしておりました。私は過去姉妹都市交流活動には事務的に接しておりましたが，今後は姉妹都市関係だけではなく国際交流活動により深く関わろうと思います。

最後に私が Welcome Ceremony で最後に引用した言葉を記します。

Life must improve as it takes its course. Your youth, you spend in preparation because the best things are never in the past, but in the future.　I hope that you pursue life, hold on to your hope and dream until the very end of the journey.

素敵な姉妹都市，グリーリー市

引率者　守谷市役所市民協働推進課　山田　雅子

平成２６年７月２４日，夏真っ盛りのこの日に学生１２名，引率者２名，合計１４名の私たち青少年海外派遣団は，守谷市の姉妹都市であるアメリカ合衆国コロラド州グリーリー市へと旅立ちました。

この日を迎えるまでに，団員たちは計５回の事前研修を受けてきました。団員の中にはこの４月から初めて英語を学ぶ中学１年生の学生もいたので，研修ではレベルごとのグループに分かれて行う英会話の時間を設けたりと，工夫を凝らしました。最初の研修では皆とても静かで，こんなに静かでアメリカで大丈夫だろうか・・・と不安になりましたが，回を重ねるごとに団員たちの結束力も強まり，意見もはっきり言えるようになっていきました。

団員たちは出発の前日は期待と不安が入り混じっているようでしたが，当日は全員元気に出発することができました。

約１０時間３０分という長いフライトを経てデンバー国際空港に降り立った時から，団員たちの異文化体験は始まっていました。皆，アメリカの広大さに驚いている様子でした。出国手続きを終えて出口を出た時，真っ先にグリーリー市の方々が目に飛び込んできました。手作りの横断幕で歓迎をしてくれ，とても嬉しかったです。グリーリー市へと向かう車中でも，団員たちは車窓から見える景色に興奮していました。広大なトウモロコシ畑，のどかに放牧されている牛や馬，遠くに見えるロッキー山脈の峰々・・・。皆，一気にアメリカの魅力に吸い込まれていくようでした。

到着したその日は，宿泊先のホテルで少し休んだ後にビュッフェ形式の夕食を食べ，近くのショッピングモールを散策しました。早速団員たちは買い物の時に，英語でのコミュニケーションに挑戦していました。私は，グリーリー市の方たちは訛りがなくとても綺麗な英語を話すな，という印象を受けました。店員の方も親切な方ばかりで，団員たちの慣れない英語を根気強く聞いてくれました。英語の勉強をするには最適な環境だと思います。この日は到着したばかりで疲れていたので早めに就寝し，翌日からのホームステイに備えました。

２日目は，Centennial Village という歴史村（日本の明治村のような所）から始まりました。英語のガイドツアーに参加したり，アメリカの昔の生活を体験したりしました。その後は隣で開催されていた，Weld County Fair（ウェルド郡の品評会）を覗きました。牛や豚がたくさん集結しており，守谷市では見ることのできない

光景に興味津々でした。お昼を食べてからは，University of Northern Colorado（北コロラド大学）の見学をしました。現役の学生の方が英語で案内してくれました。日本の大学と比べるとはるかに敷地が広く，設備も充実しており，皆感心しきりでした。「将来留学するぞ！」と心に決めた団員もいることと思います。大学を見学し終わり，いよいよホストファミリーと対面するときが近付いてきました。皆緊張しながら会場（Union Colony Civic Center）に向かいます。会場ではホストファミリーたちが今か今かと待っていて，団員たちと対面したときは，歓喜に満ちていました。グリーリー市のトム・ノートン市長の御挨拶や記念品の贈答などの後，団員たちはそれぞれのホストファミリー宅へと向かっていったのでした。ホストファミリーとうまくやっていけるか心配もありましたが，団員たちの楽しそうな表情を見て，その心配も吹き飛びました。

翌日から，ホストファミリーとの生活が始まりました。地元コロラド・ロッキーズの野球観戦，Fun Plex という施設でのスポーツを始め，ロッキー山脈のエステスパークへ行って乗馬をしたり，買い物やボウリングを楽しんだりと充実した日々を過ごしたようです。皆，それぞれのホストファミリーと思い思いに楽しんでいて，自然に国際交流をしていました。帰国前日の夜には，持ち寄りパーティーの場で，これまでの感謝を込めて歌とマジックを披露し，とても喜んでいただけました。パーティーの後は，各々の家でゆっくりと最後の滞在を楽しく過ごしたことと思います。

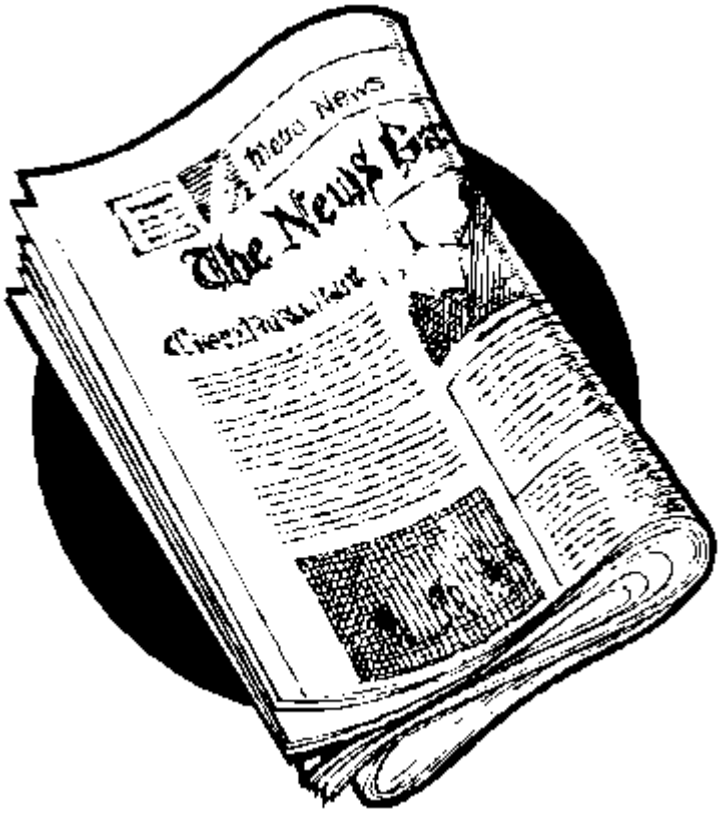
いよいよ帰国の日，皆別れを惜しんで泣いていました。とても短い滞在でしたが，充実した日々を過ごし，固い絆を結べたのだなと感慨深かったです。何より，日を追うごとに自信に満ちていく団員たちの表情を頼もしく思いました。別れは寂しいですが，この１週間で成長した団員たちなら，いつかきっと今度は自分の力でグリーリー市に行くことでしょう。

私個人としても，今回のグリーリー市訪問はとても実りあるものとなりました。守谷市青少年海外派遣事業担当として，グリーリー市の担当者の方々と今後の姉妹都市交流の発展に役立つ有益な会話をすることができました。また，私たち以上にこの青少年海外派遣事業に熱い想いを抱いているホストファミリーの方々や現地在住の日本人の方々とも交流ができ，今後より良いプログラムを日米合作で作っていこうと語り合いました。

最後に，私たちを温かく迎え入れてくださったグリーリー市の皆さん，事前研修から御協力いただいた守谷市国際交流協会の方々，日本からサポートをしてくださった市民協働推進課の皆さん，共に引率をしていただいた鷺野谷団長，現地で慣れない引率業務をサポートしてくださった添乗員の石井さん，そして１２名の団員たちに心から感謝を申し上げ，報告書とさせていただきます。

グリーリーの新聞に掲載された記事

GREELEY TRIBUNE



JOSHUA POLSON/jpolson@greeleytribune.com

AYANE KITAHARA LAUGHS WITH friends as they explore Gunter hall on the University of Northern Colorado campus during a special tour of the campus Friday afternoon in Greeley. These teenagers were a part of the Japanese delegation from Moriya, the sister city to Greeley.

Japanese students kick off Sister Cities Program trip with UNC tour

By **Tyler Silvy**
tsilvy@greeleytribune.com

Trapped by a sudden rain storm in the University of Northern Colorado's Guggenheim Hall, a delegation of Japanese teenagers began to get antsy.

The group of 12, in Greeley as part of the Sister Cities program with Moriya, Japan, had taken plenty of photos already on a hot Friday afternoon.

But they soon turned their attention to two tour crashers from The Greeley Tribune. That would be Tribune photographer Josh Polson and myself, education reporter Tyler Silvy.

One by one, members of the Moriya delegation posed for photos. Members of the group offered gifts, including dried prawns — think beef jerky mixed with sour candy.

Taking pictures and sharing those pictures on social media is pretty much a common language. But the 10 girls and two boys on the tour spoke English well, too.

"I like English," said 17-year-old Ayane Kitahara. "I've studied for seven years. But I haven't ever come to (the United States)."

TYLER SILVY/tsilvy@greelytribune.com

GREELEY TRIBUNE PHOTOGRAPHER JOSH Polson, middle, poses for a photo with members of a Japanese delegation of students visiting Greeley from Greeley's sister city, Moriya, Japan.

Many of the visitors had never visited the United States, let alone Greeley. The biggest difference?

"In America, everything is big," said Ayaka Yamazaki, 16.

Kithara echoed Yamazaki's sentiments, saying her town, Moriya, is small. Moriya has about 30,000 fewer people than Greeley, but it would likely be right at home along the Front Range thanks to the large Asahi Brewery, which offers free tours.

Mari Hein-Beegle, who works as a program coordinator for the City of Greeley, said Japanese students and students from the United States take turns touring the sister cities. This year, it was Moriya's turn, and the group will be in town all week after arriving Thursday.

On Sunday, they took in the Rockies-Pirates game at Coors Field.

Asked why she wanted to come to Greeley with the group, Yamazaki thought for a moment.

"I want to experience the USA," Yamazaki said. "I want to speak English in America."

Well, now you have.

Tyler Silvy covers education for The Greeley Tribune. Reach him at tsilvy@greeleytribune.com. Connect with him at Facebook.com/TylerSilvy or @TylerSilvy on Twitter.

２０１４年7月２９日

日本の学生たちが姉妹都市派遣旅行を北コロラド大学ツアーからスタート

北コロラド大学のグッゲンハイムホールにいるときに突然の大雨に見舞われ，10代の日本人の代表団は不安になっていました。

金曜日の午後，12 人の派遣団員たちは，姉妹都市であるグリーリー市で既にたくさんの写真を撮っていました。

しかし彼らの関心はすぐに，我々グリーリートリビューンから来た２人の突然の訪問者へ向けられました。それは，新聞社のカメラマン，ジョシュ・ポルソンと私，教育リポーターのタイラー・シルヴィーでした。

１人ずつ守谷市の派遣団員は写真を撮りました。団員の１人は干し梅などをくれました。すっぱいキャンディーが混ざったビーフジャーキーのようでした。

写真を撮って，それをソーシャルメディア上でシェアするのは共通言語ですが，団員の１０人の少女と２人の少年は英語も話しました。

１７歳の北原綺音さんは「英語が好きです。７年間勉強していますが，今までアメリカに来たことはありませんでした」といいます。

ほとんどの団員は，アメリカを訪れたことがありません。グリーリーが初めてです。最も大きな違いは何でしょうか。

１６歳の山崎彩花さんは「アメリカは全てが大きい」といいます。

北原さんも山崎さんが言ったことを繰り返し，守谷は小さいと言います。守谷の人口はグリーリーより約３万人少なく，無料ツアーがある大きなアサヒビール工場が立地しており，フロント山脈（ロッキー山脈の東側）沿いの様であると思われます。

グリーリー市のプログラムコーディネーター，マリ・ヘイン・ビーグルさんは，日本の学生とアメリカの学生は交互に姉妹都市を訪れている，と言います。今年は守谷市の番で，木曜日に到着してから１週間グリーリーにいる予定です。

日曜日には，クアーズ・フィールドで行われるロッキーズ対パイレーツ戦を観戦します。

山崎さんになぜグリーリーに来たいと思ったのか聞いたところ，彼女は少し考えてから「アメリカを体験してみたかった。アメリカで英語を話してみたかったのです」と答えました。

願いが叶いましたね。

GREETINGS FROM MORIYA, JAPAN

Greeley welcomes Sister City visitors

Konnichiwa! ("hello" in Japanese).

One of my staff members recently shared a small article with me from Psychology Today that was titled "The True Meaning of Friendship." In the article, it explored the value of friendships and referred to a Japanese term, "kazoku," which, when translated, literally means "family." The timing of the article was impeccable as our friends from our Sister City of Moriya, Ibaraki Prefecture, Japan, are visiting us this week.

The city of Greeley has had a Sister City relationship with the city of Moriya for 21 years. Throughout those years, we have hosted students here and we have sent Greeley students to Moriya. This will be the 13th year that we will host Japanese students from Moriya. For the Japanese students, the week is sure to be filled with trepidation, excitement, awe, wonder, fun, emotion and family bonding. I can personally relate to this. I experienced the exact same feelings when I had the chance of a lifetime to chaperone a delightful group of Greeley students last year, along with City Councilman Mike Finn and Culture, Parks, and Recreation Director Andy McRoberts, as we visited Moriya.

Jill Droegemueller
GUEST COLUMNIST

Moriya is very similar to Greeley in that it is surrounded by beautiful countryside and agricultural lands and is about an hour drive from Narita Airport in Tokyo. Sound familiar? DIA to Greeley? We were treated like family while in Japan, and that is exactly the type of experience we will try to emulate each time we host students.

As part of our hosting, our Japanese friends this week will enjoy a taste of America by way of Greeley's own Centennial Village, Weld County Fair, a tour of the UNC campus, a welcoming by City Council, the Arts Picnic, a Rockies Game, a barbecue and afternoon of fun at the Family FunPlex hosted by our own Youth Commission, an ice cream social — and more!

But the most precious time will be the time spent with the gracious host families in Greeley. These families treat the students like one of their own by opening up their homes and hearts to be a small but integral part of the students experience while here. Although the time is relatively short, I guarantee bonds and friendships that will last for a very long time, and assuredly emotional goodbyes when it comes to the end of this precious and eventful week.

I hope that you will join me in welcoming our visiting Japanese students and chaperones. I also extend an invitation to you to be a host family for Moriya in 2016!

Itterassyai and Arigato Gozaimas! (Have a good day/trip and thank you!)

Jill Droegemueller works in Culture Division and is a financial services coordinator.

グリーリーが姉妹都市の派遣団を歓迎

こんにちは！（”hello”という意味の日本語）

最近同僚の１人が Psychology Today の小さな記事を見せてくれました。「友情の真の意味」というタイトルでした。記事では友情の価値について書かれており，日本語の「家族」（”family”という意味）という言葉に触れていました。今週，私たちの姉妹都市である茨城県守谷市から友達が来ているので，記事のタイミングは完璧でした。

グリーリー市は守谷市と２１年間姉妹都市の関係です。これまで，私たちは日本の学生をグリーリーに迎え入れ，守谷にグリーリーの学生を送ってきました。守谷から日本の学生を迎え入れるのは，今回が１３回目（正しくは１４回目）です。日本の学生たちにとって，この週は不安，興奮，恐れ，驚き，楽しみ，感動，そして家族の絆で溢れるでしょう。私は個人的にこれらに関わることができます。私は去年，愉快なグリーリーの学生たちを，市会議員のマイケル・フィンさんと文化・公園・レクリエーションディレクターのアンディー・マクロバーツさんと一緒に守谷へ引率した時，まさに同じ気持ちを味わいました。

守谷はグリーリーと似ていて，美しい田舎や農地に囲まれ，成田空港から車で１時間の所にあります。親近感が湧くでしょう？ デンバー国際空港からグリーリーに行くようなものでしょう？ 私たちは日本にいる間，家族のようにしてもらいました。そしてそれは，私たちが学生たちを迎え入れる時に見習うべき経験でした。

私たちの日本の友人たちは今週，センテニアル・ヴィレッジ，ウェルド・カウンティー・フェアー，北コロラド大学キャンパスツアー，アートピクニック，ロッキーズ戦，青年委員会主催のファミリーファンプレックスでのバーベキューと午後の楽しいひと時，アイスクリームを囲んでの集まりなどでアメリカの雰囲気を楽しむでしょう。

しかし最も貴重な時間は，グリーリーの優しいホストファミリーと過ごす時間でしょう。ホストファミリーたちは，ここにいる間，小さいけれどパーフェクトな経験になるように，家と心を開いて学生たちを家族の一員のように扱ってくれます。

時間は少ないですが，絆と友情が長く続くことは間違いありません。そしてこの貴重で色々な出来事がある週の最後には，必ず，感動的なお別れになります。

皆さんが日本の学生たちと引率者を歓迎してくれることを望みます。そしてまた，２０１６年にホストファミリーになってくれるよう招待状を送ります！

いってらっしゃい，そしてありがとうございます！（Have a good day/trip and thank you!）

編　集　後　記

今回で２４回目となる守谷市青少年海外派遣事業。今回の派遣国はアメリカ。海外に行くこと自体が初めてという団員もおり，青少年の皆さんは今までにないような体験や感動で価値観が変わったことと思います。中でもホームステイでの経験は皆さんがこの報告書に書かれたように，本当のアメリカ特に英会話を肌で感じたことでしょう。

今年度の派遣団員の皆さんは，事前研修当初とても大人しく自分の意見をはっきり言うことができず，心配したことを思い出します。

その後の事前研修では，フェアウェルパーティーで着用するＴシャツのデザインを皆で決めたり，披露する歌（かえるの歌・涙そうそう）を一生懸命練習していたこと，英語の練習やサンキュープログラムの内容に真剣に取り組んでいたこともあり，団員の皆さんの絆も深まりホストファミリーともかけがえのない思い出ができたと聞いています。

帰国後の事後研修では，皆さんの顔つきも変わり少し大人になった気がします。MIFA（守谷市国際交流協会）が行った夏祭りの出店の手伝いや，MIFA フェスタにも積極的に参加してくださり，今後の活動が楽しみです。団員の皆さんには参加した仲間との交流はもちろんのこと，遠く離れたアメリカ，グリーリーの新しい家族・友達との交流を是非続けてほしいと思います。そして，この事業で得た『心のふれあい』を忘れずに次のステップに役立てていただき活躍されることを願っています。

最後になりましたが，団長として研修から積極的に御尽力いただきました，鷺野谷さん，そして団員の選考から研修まで御協力いただきました守谷市国際交流協会の皆様に心から感謝申し上げます。

守谷市役所　生活経済部　市民協働推進課